



いずみ

<学校の教育目標>

かしこい子
やさしい子
たくましい子

令和3年6月1日発行

(Tel) 3480-3881 (Fax) 5497-7358 (HP) <<http://www.komae.ed.jp/ele/izumi/>> 校長 鷲見 真太郎

自己有用感 ～コロナ禍だからこそ～

校長 鷲見 真太郎

ゴールデンウィーク明けに解除される予定だった緊急事態宣言が延長され、新型コロナウイルス感染症対策も緊張度が増してきました。学校では、これまで以上に感染対策に力を入れつつも、コロナ禍が長期化してきた故、心配な面も見られます。その一つが、子供たち同士のかかわりの減少に伴う、自己有用感の低下です。

自己有用感と同類の言葉として、自己肯定感があります。児童・生徒の意識調査の国際比較として、この自己肯定感が他国に比べて低いことが問題視されて久しいです。そこで、自己肯定感を向上させる必要性が問われてきましたが、私はこの自己肯定感向上のみに特化した取組は一概に良いとは思えません。もちろん、子供たちが成長し、自身が望むような力を身に付け、自分に自信をもつことは大切なことです。しかし、自信をつけさせることだけが目的となり、本人の実感が伴わない褒めシャワーを浴びせることでの、根拠のない傲慢な自信は、かえって成長を妨げてしまうと考えるからです。

人が成長するには、謙虚な気持ちで自分を客観的に顧み、目指す姿に足りないものを身に付けようと努力を重ねることが大事だと考えます。日本人が本来大事にしていた、こうした謙虚さは、子供の成長のためにもたいへん重要です。そこで子供たちに伸ばしたい要素として注目したいのは自己有用感です。自己有用感とは、集団の中での自分の役割を自覚し、役に立ち、達成感を得られることで高まります。自己有用感が高まると、皆のために自分はさらに何ができるかと考えられるようになり、それが前向きな行動や成長を促し、自身の長所に対する客観的理解が伴った、より大きな自信に繋がります。この自己有用感の向上には、他人とのかかわりの中で認められるという経験が不可欠です。そのことから、学校教育の中でこそ高めるべきだと考え、今年度の学校経営方針にも掲げております。

自己有用感を高めるため、集団活動の中で、所属感や達成感を得られる活動を意識的に設定していきます。そのためには、どの子にとっても自分の居場所がもてるように、学校環境も整えます。また、褒めることより、認めることが大事だと言われています。その点は、ご家庭でも意識していただけるとありがたいです。(褒めることと認めることの違いは、また別の機会にお話しさせていただきます。)

コロナ禍でも、いやコロナ禍だからこそ、子供たちにとって大事な部分を、しっかり育てていきたいと考えて、教育活動を進めてまいります。

6月の行事予定

1日(火) 安全点検日	17日(木) 体カテスト(1,2年)
5日(土) 体育実技発表会(予備日7日(月))	耳鼻科検診(全学年)
7日(月) 安全指導日	交通安全指導日②
委員会活動	読書週間(~7月2日)
8日(火) 個人面談①	18日(金) 体カテスト(3,4,5,6年)
10日(木) 個人面談② 避難訓練	21日(月) クラブ活動
11日(金) 個人面談③	22日(火) 内科検診(1-1,2年,3年)
14日(月) 個人面談④ あいさつ週間(~18日)	23日(水) 内科検診(1-2,1-3,6年)
15日(火) 個人面談⑤	25日(金) 開校記念日
16日(水) 眼科検診(全学年)	28日(月) クラブ活動
交通安全指導日①	30日(水) 歯科検診(2,4,6年)